

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873800833
法人名	株式会社 モデンナ・ケアサービス
事業所名	グループホーム ドルチェ
所在地 (電話番号)	茨城県稲敷郡美浦村木原89-1 (電話)029-891-5600

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年8月4日

## 【情報提供票より】(20年3月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	5 人, 非常勤 11人, 常勤換算 15.11人

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> /改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<del>無</del>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1050 円		

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	美浦診療所・美浦中央病院・しのつか医院・まつば歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角に、田畑や自然に囲まれ恵まれた環境に位置している。ホームは2ユニットあるが、双方ともリビングに直面したカウンターキッチンで、利用者、職員共々大変使い勝手がよい造りとなっている。また天井も高く、窓も多く設置されており、光が多く差し込みホーム全体が明るい。空間も広々としており、その中で利用者が自由にゆったりとすごしている。部屋はそれぞれ畳のつくりで、利用者がベット、または布団と好みの寝具を持ち込んで、思い思いの部屋としていた。また併設のデイサービスと連携を図りながら、より質の高いサービスを提供することが心がけられている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は「食事を楽しむことの出来る支援」であった。前は利用者の食事時、職員が見守りに徹してしまっていて家庭的環境ということではできないような状況であった。この反省を活かし、食事は職員も一緒に摂るようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	夜間を想定した避難訓練を行っていなかったため、今後実行することを計画している。またこれまで職員が利用者に対して指示をしてしまうようなこともあったが、それを反省し、利用者職員が共に支え合うようなケアをめざし積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の主な討議内容は、夜間を想定した避難訓練を行っていなかったことを指摘されたため、今後実行することを計画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は頻りにホームに足を運んでくれる方が多く、その都度意見や苦情を聞くようにしている。これまで苦情はあまりでないが、入浴に関する事、食事に関する事等が意見や要望としてあがってきたことがあった。それに対しては出来るだけ対応するように心がけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学生が見学にきたり、ボランティアを積極的に受け入れるなど日常生活において地域と積極的に連携し、ホームが活気づくようにしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、地域密着型のサービスを提供しようとする姿勢があらわれている事業者の独自のものを構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各職員の名札の裏に印刷しており、いつでも確認できるようにしている。またカンファレンス等において理念を掲げ、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人との出いりが多く、それにより交流の機会が必然的に多くもっている。また公園への散歩時にごみ拾いをして地域へホームの存在のアピールを行っている。さらに小学校のボランティア体験も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、評価結果を受け止め改善を試みている。	○	自己評価をする際、管理者同士で話し合いは行っているが、その職員が関わっていないので、今後は職員の意見も取り入れながら自己評価を行ってもらいたい。また各職員の確認印がなかったため、今後は職員が確実に見た、ということを確認できるようなフォーマット等の作成が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度から年3回行う予定となっている。これまでの出席者は、市町村(役場)、区長、利用者の家族、事業所管理者と職員であった。記録も残されており、また運営推進会議で提案された事項(夜間想定避難訓練)に対する取り組みもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な制度、例えば介護保険法等の解釈や運用の方法について随時指導を受けるなど良好な関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行されている写真とスタッフによる利用者の様子等が記載されている「ベストスマイル」と題するホームだよりを各利用者の出納状況とあわせて毎月家族に郵送している。また家族の面会が頻回にあるため、その都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設置している。これまであまり意見が入っていたことはなかった。しかし、家族がホームを訪ねてきた際に職員に直接いっている。これまで際立った苦情や不満はなかったが、利用者の食べ物の好みや入浴回数などについての要望はあった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は利用者にあわせてその事実を伝えるか否かという見極めをミーティング等において行っている。また新しく配置された職員は利用者とできるだけ多くコミュニケーションを図り、早くうち解けるように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は設けられており、必要に応じて参加している。また研修を受けた職員がその内容をミーティングにおいて伝達している。これまでの研修資料や勉強会の資料が整理して保管されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在地域にグループホームが一軒しかないため、同業者との交流は困難な状況にはある。しかし、同業者との交流のメリットを理解しており、今後近隣の市町村にある同業者の交流会等に積極的に参加していくことの準備を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員との顔合わせや見学、行事に参加してもらう等の配慮をしている。またショートステイも併設しているので、そちらを利用しながらホーム入居の準備をすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は教えたり、教えられたりの関係を築いている。具体的な例としては、裁縫や魚のさばき方など、またお手玉をする際の歌といった昔ながらの遊びなどがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者と一緒にお茶を飲みながら、個々人と関わる時間を持つ中で、思いや意見をきき、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、ケアマネジャー、看護師、ケースワーカーでチームになって、また家族や本人の意見をもらいながらケア計画を作成している。作成されたケア計画には、意思表示が可能である方は本人、またご家族からの認印が押されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスにて見直しされ、各職員が現状把握ができています。	○	モニタリングシートがないため、介護計画がどの位達成されているのか、あるいはいないのかが不明確である。今後はモニタリングシートを作成して、実行された介護計画をどのように見直したのか、あるいは見直す必要がなければその理由等を明確にしていく必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスやショートステイが併設されており、必要に応じてグループホーム利用者も利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望に添って、提携医療機関以外にかかりつけ医がある場合、そちらで受診できるような取り計らいをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで重度化、終末期を迎えた利用者に対応してきた。そのような状況になると、ご家族等と話し合いを重ね、その内容を文書にしている。	○	まずホームにおいて看取りをするのかしないのか、という基本的な方針が未決定である。したがって、入居時に利用者が重度化した場合や終末期にどのような対応をすべきであるか、といった話し合いはあまり成されてこなかった。今後の対応策としては、まずホームが看取りケアをするのか否か、という基本方針の策定が必要である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に退職後においても守秘義務を遵守することに同意を得る文書を作成しサインをしてもらっている。また職員の利用者に対する様子も、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はみられなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、利用者の希望に添って臨機応変に対応している。食事後に利用者が思い思いに過ごしている様子からも、職員側の都合でケアをしようとしていない様子をうかがうことが出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意や片付け、洗い物を拭いたり利用者職員と一緒に準備や片付けをしている様子が確認できた。また食事を楽しむことのできる支援の一環として、盛りつけや色合いの工夫等に気を配っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の時間は決まっているが、利用者の希望に合わせた時間に入ってもらえるような取り計らいをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、ゴミ捨て、モップがけなど日常生活における家事、またこれまでの生活歴を活かしながら役割を遂行してもらったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩で近隣の公園や買い物にも出してもらっている。最低でも月に1回は外出をしてもらえるよう行事を組んでいる。今後も外出の機会を増やしたいとも考えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアは実践されており、これまで鍵をかけるようなケアをしてきたことはない。		これまでも鍵をかけないケアを継続的に行ってきた。ただ「今後やむを得ず鍵をかけなければならない場合とはいかなる場合であるのかを主論点に施設内の規則を整備していきたい」と自己評価していたため、鍵をかけるケアありきで検討するのではなく、鍵をいかにしてかけないように体制を整えていくか、という観点から検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署に来てもらい行っている。また利用者を避難誘導する訓練を日頃より実施している。		非常食が常備されていないので、準備されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄の各利用者の記録が詳細にとられている。またフォーマットも非常にみやすく、利用者の状況を一目で確認できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは非常に清潔で、空間も広々としている。また窓も多く、日中は心地よい光が差し込むように設計されている。けばけばしい装飾もなく、簡素ではあるが落ち着いており、お年寄りにとって居心地がよい空間となるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの利用者が、馴染みの家具等を持ち込んでおり、思い思いのレイアウトで、自分の居心地の良い空間を作っている。		